

米軍 1万7000人、銃5000丁

「黒塗り」消え 実態鮮明

大半の輸送機には武装兵が搭乗、空輸期間の後半は「米軍のための空輸」に。航空自衛隊によるイラク空輸活動の「週間空輸実績」の全面開示は、空輸活動が米軍などの「後方支援」にあたる実態を鮮明にした。自公政権時代は黒塗りされた部分が開示されたのは、民主党中心の新政権に代わった「成果」と言える。次の課題は、野党当時に反対していた自衛隊イラク派遣の再評価。対米追従が目立った前政権との違いを明確にできるか注目される。(編集委員・半田滋)

イラク空輸 全面初開示



イラクで最後の空輸を終えた航空自衛隊C130輸送機の乗組員ら＝2008年12月、クウェートで(防衛省提供)

■ 抜け道

「週間空輸実績」によると、空自のC130輸送機はクウェートのアリ・アルサレム基地を拠点に月曜日にバグダッド空港、水曜日にバグダッドを経由してイラク北部のアルビルへ行く国連のための定期便があり、ほかに週一日から三日、同南部のアリ基地へも飛行した。

国連定期便を含め、大半の便に米兵が搭乗。バグダッドや隣接するフアルージャで武装勢力と戦っていた陸軍のほか海軍、空軍、海兵隊も利用した。

搭乗した多国籍軍は米軍(一万七千六百五十人)、豪軍(八百六十六人)、韓国軍(百三十八人)、ポーランド軍(五十八人)、ルーマニア軍(二人)、その他関係国軍人(十

人道支援 名ばかり 新政権の検証 不可欠

三人)の計一万八千七百二十七人。米重属、日本の外務省も活用した。

兵士が持ち込んだ小銃・拳銃は五千三百九十五丁で三人に二人は丸腰の計算。だが、米陸軍四十人が人数の二倍にあたる八十丁の小銃・拳銃を持って搭乗するなど、人数を上回る武器を持ち込むこともあった。

■ 大義

イラク特措法に基づき実施要項には「武器・弾薬の輸送はしない」と明記されているが、武装兵の輸送は禁止しておらず、武器輸送の「抜け道」として「持ち込み」が行われた疑いがある。

米軍物資の空輸も二回あるが、「米軍貨物」「米軍木箱」と記録され、中身は不明。また、豪軍、韓国軍が撤収した後の二〇〇八年三月、バグダッド便は

「持込み」が行われ、身が米兵となった疑いが浮上した。国会では、民主党の原口一博氏(現総務相)が「週間空輸実績」をもとに「全部黒塗り」をめぐり、バグダッドにも非戦闘地域はあるし、輸送機から降りた米兵がそのまま戦闘に加わるわけでもない」と反論した。

公開された「週間空輸実績」だけでは、この反論の適否は分からない。検証の材料になる自衛隊の資料は新政権の手元にある。鳩山由紀夫首相が目指す「対等な日米関係」の

月曜から水曜までの三週間が増えた。国連空輸ゼロが続く中、米兵(副大臣)も「人道復興は毎週二百人前後も搭乗し、終盤は米兵の大量輸送が常態化した」と追及した。

こうした人々が政権を取り、空輸活動のデータは開示された。情報公開を請求した近藤ゆり子さんは「イラク特措法に反対した政党が中心の政権となり、政治に変化の兆しを感じ」と評価する。

その一方で、新政府は米英でさえ揺らいだ「戦争の大義」をどうみているのか、自衛隊派遣は何だったのか見解を示していない。

昨年四月、名古屋高裁がイラク空輸について違憲判断を示した。今後本年度の税制改革の度、税率や調整、産

と政府に迫り、社民党の辻元清美氏(現国交大臣)も「人道復興は毎週二百人前後も搭乗し、終盤は米兵の大量輸送が常態化した」と追及した。

こうした人々が政権を取り、空輸活動のデータは開示された。情報公開を請求した近藤ゆり子さんは「イラク特措法に反対した政党が中心の政権となり、政治に変化の兆しを感じ」と評価する。

その一方で、新政府は米英でさえ揺らいだ「戦争の大義」をどうみているのか、自衛隊派遣は何だったのか見解を示していない。

昨年四月、名古屋高裁がイラク空輸について違憲判断を示した。今後本年度の税制改革の度、税率や調整、産

核心

空自衛隊の輸送活動拠点



を現実することを表議には踏金首相 錦清国守として九戴秉国にして金総

信号に急需も
「けのことば」
岡井 隆